

# 2022年度相対的貧困認知事業のご紹介

一般社団法人宮崎青年会議所

地域子育て連携委員会

# 宮崎県では10人に1人が相対的貧困状態



宮崎青年会議所では、2022年度の事業として、未来を背負っていく宮崎の子どもたちのために、「相対的貧困」問題への意識向上を目指す取り組みを行いました。

相対的貧困を解決するため、SNSアカウントを通じて認知向上の取り組みを行い、苦しんでいる子ども達の現状を多くの人に伝え、子ども達の未来に光を射すことを目的とした事業を行いました。



# まずは知ってもらうこと

2022年2月～2022年8月まで

**TikTok** での情報発信を行いました。

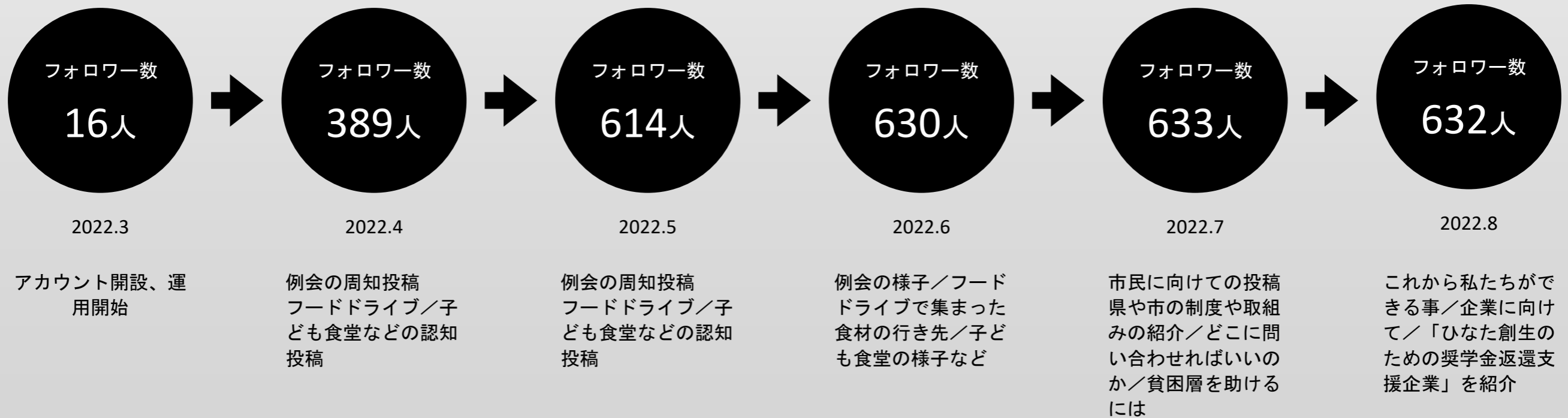


宮崎における相対的貧困の状態にある人の割合は、10人に1人です。  
この事を知っている方はどれくらいいるでしょうか。  
中には、自分が貧困状態にあることに気づいていない人も多いのです。

貧困状態にある人は周りにそのことを知られたくありません。そのため、子どもたちの食費が削られ、痩せていきます。  
シングルマザーで精神疾患があったり、旦那さんからのDVを受けたり、腹違いの父親だったり知られたくない現状がたくさんあります。

青年会議所では継続して教育支援事業を行うことや、子ども食堂の運営を行うことは難しい。  
しかし、現状を認知してもらう事で、その先の気づきや行動へ移してもらうことが可能だと考えています。

# まずは知ってもらうこと





## 街中ピクニックへの参加

2022年5月22日

「宮崎では7人に1人の子どもが貧困状態にあること」を認知してもらおうと、

5月22日（日）の5月例会において事業を開催しました。

MRT miccでは、子どもの貧困問題に取り組む公益財団法人あすのぼの小河光治さんをお招きし、子どもの貧困の現状について講演していただきました。

講演会終了後、高千穂通で行われた街中ピクニックとコラボし、

- ・フードドライブ
- ・スタンプラリー
- ・協力店舗とのこども食堂
- ・協力店舗で使える「こどもチケット」「未来チケット」の発行

の4つの取組みを行いました。

